



# 和(輪)のまちだより

発行日	平成30年1月1日
編集・発行	第四地区住民自治協議会 総務部会
印刷	有限会社 長野プリントサービス

☆第四地区は「諏訪町」「西後町」「県町」「南県町」「妻科」「新田町」の6町で構成されています☆

## 新年あけまして おめでとうございます 平成30年 元旦

明けましておめでとうございます。

今年は戌年です。昔からの格言で「申酉(さるとり)騒ぐ。戌(いぬ)笑い、亥(い)固まる」があります。私達の第四地区でも、去年はマンションも新築され、県立大学学生寮や後町ホールや屋台倉庫の建設工事及びそれに伴う様々な準備等が行なわれ、正に次世代に向けた“騒ぐ”年だったかもしれません。今年、いよいよそれらのことが具体化し、住民が“笑う”ことに繋がる年になります。我々の地域に数百名の“若者”が新たに移り住んでくれます。若者と一緒に“笑い”が広がる地域になる様に住民自治協議会は活動致します。本年も宜しくお願いします。



第四地区住民自治協議会  
会長(西後町区長)  
横田 悦二郎

「第四地区住民の皆さまの参加による  
「清掃センターと長野県消防学校見学ツアー」

去る9月20日(水)、第四地区の住民の皆さまを対象にした「清掃センターと長野県消防学校」の見学ツアーを実施しました。

清掃センターでは、家庭から毎日出されるゴミを処理している様子を見学しました。たまたま見学した日の前日まで、焼却炉の点検をしていたために、焼却が1週間止まっていたので、深さ25m、4300㎡収容できる「ごみピット」という巨大なプール状の施設の8割方が埋まった状態を見ることができました。

プラごみの施設では、全てのプラごみ袋を手作業で点検し、プラごみに混じって入れられた木製品とかプラではない樹脂製品などを一つ一つ取り除く地道な作業を目の当たりにし、市民全員がルールを守ってごみ排出をしなければいけないと、再認識しました。



写真右:4500㎡収容のごみピットが満杯寸前

写真左:プラゴミを全て手作業で確認しています

昼食をはさんで、午後は篠ノ井にある「長野県消防学校」を見学しました。ちょうどこの日は実地訓練がある日で、若い消防士の卵たちがテキパキとした動きで訓練をこなす頼もしい姿に感銘を受けました。訓練見学後は、室内で、ちょっとした防災についての勉強会と応急処置を教わりました。

災害で、骨折した人の患部固定には、どこの家庭にもある段ボールが有効だとか、傷病者を運ぶ時には毛布の長い2辺を丸めたところに患者を乗せると、大人6人で容易に運べること等、とっさの時に役立つ話を聞くことができました。

参加頂いた30名余りの方、ありがとうございました。今年もこの事業は引き続いて実施致しますので、たくさんの方の参加をお待ちしています。



## 恒例の“いきいき交流会”開催される

去る10月17日(火)、恒例の「いきいき交流会」が開催されました。今回は会場を犀北館ホテルにし、100名を超える元気なお年寄りが集まりました。

昨年に引き続いて、今年もシャンソンならぬ山村歌手の「神谷 あり子」さんが「こんにちは！神谷あり子ではなく、吉永小百合で一す！」の軽妙なジョークから始まり、約40分間にわたって昔懐かしい童謡、昭和の歌謡曲などを神谷さんの楽しいおしゃべりとともに、参加者も大きな声で歌いました。

神谷さんのステージの後は、犀北館ご自慢の和食の昼食をみんなで頂き、楽しいひと時を過ごすことができましたものと思います。



## 第四地区合同防災訓練



10月22日(日)、第四地区6町合同の防災訓練が、中部公民館第四分館で行われました。台風の接近による朝から雨が降る中、参加者はいるだろうかという心配をよそに、各町から多くの方が集まり、総勢75名の方に参加して頂きました。

当初の予定では、ひまわり公園で消火器取り扱い、AEDの取り扱い、模擬煙を体験する訓練などを行う予定でしたが、第四分館に場所を移して規模を縮小して実施しました。

住民の皆さまの消火器取り扱いの訓練では真剣な眼差しで消火器を扱い、中央消防署の署員の方による身近にある毛布を使った簡易タンカのお話しでは大人4人が四隅を持たば大人一人

を運ぶことができることなど、有意義な話しを聞くことができ、いざという時に役立てたいものです。

火災を発見した時は何よりも最初に「119番」に電話をしてから初期消火をすること、大きな地震に襲われた時は自分の身を守ることに専念することなど、普段から家族でお話しすることが大切だそうです。

雨の中を参加してくれた多くの住民の皆さま、ありがとうございました。



## 若穂地区との地域間交流事業

若穂地区と言っても、中山間地はそのうちの「保科地区」に限定されるため、今年も保科地区を訪れました。

紅葉で有名な「清水寺」近くでバスを降り、徒歩で清水寺に向かい、紅葉を堪能しました。紅葉は少し時期的には早いということでしたが、見事なまでの楓の紅葉を見て、感激しました。

清水寺では住職から、お寺の成り立ちから若穂地区の歴史まで、ユーモアを交えたお話しを聞き、参加者も満足気でした。



拡大に第四地区として何かできることはないかなど活発な意見を交換しながらの昼食会となりました。

今年の4月に県立大学の寮が後町小学校の跡地にて、その学生の力を借りながら、若穂地区との交流を図って行こうという意見も出たので、今後評議員を中心に実現に向かって検討を重ねることとなりました。

長野市では中山間地のある地区と中山間地のない地区とが交流を促進する「地域間交流事業」に力を入れています。

第四地区は昨年から若穂地区との交流を図っており、11月8日(水)に、第四地区住民自治協議会の評議員19名が若穂地区を訪れ、交流しました。



清水寺から再びバスに乗り、保科温泉に行き、若穂地区の歴史、特産品などの紹介DVDを鑑賞し、その後は若穂地区で力を入れているジビエ(野生の鳥獣)の試食を兼ねた昼食を頂きながら、今後の交流のやり方や、ジビエの販路




若穂地区の皆さまと意見交換する第四地区の皆さま



若穂地区が力を入れるジビエ猪のチャーシューと鹿のしぐれ煮

# 第四地区紹介ガイドブック “だいにんちく物語” 快調に製作進行中!!



10月号で既にお知らせしましたが、今年の3月の出版を目指して、第四地区を紹介するガイドブック“だいにんちく物語”の製作が快調に進行中です。今回は初の出版となりますので、第四地区を代表する場所などをご紹介します。

第四地区の全てのお宅にお配りするものですので、是非ご覧下さい。区内をこの本を片手に散策する人が増えることを夢見ています。もうしばらくお待ち下さい。

広告欄

広告欄

広告欄

広告欄